

課題名 新たな農業従事者の確保～やってみよう中丹農業～	人づくり	中丹東・中丹西農業改良普及センター
(1) 普及指導事項（評価対象） 普及指導事項②：農作業体験の推進	(2) 普及指導対象 <農業経営体>食いく先生、農業士、農業法人、集落営農組織 <子供>小学校（児童）、中学校（生徒）	
(3) 活動内容と成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・農作業体験活動に関心が高い農業経営体6戸を対象に、過去の事例紹介、授業内容の提案及び生徒の理解度を高める工夫等を助言した。 ・農作業体験に関するアンケートを管内中学校24校に実施し、体験実施の意向を表明した学校に、管内での事例紹介や農業経営体とのマッチングを行った。 ・令和6、7年度には中学校3校、小学校1校において新たに農業経営体とのマッチングが成立し、農作業体験活動が実施された。 ・支援の結果、学校と農業者双方の意欲が高まり、農作業体験活動の実施が定着した。また、中学校の職場体験受け入れへと取り組みが広がった。 		
(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等	
<要約> 農家減少が進む中、小・中学生の農作業体験を通じて農業を身近に感じてもらう取組は評価でき、関係機関との連携による実施体制も意義が大きい。体験者数の増加や農業への関心向上など着実な成果が見られる点も評価する。また、食育の視点からも効果が期待され、将来の担い手育成にも資する活動である。 小中学生への体験が職業選択に結びつくように、成果・効果を追跡しつつ、継続した仕組みを構築していくなど、今後の取組に期待する。	学校給食への出荷実績がある農家が農作業体験を受け入れる場合、児童が収穫した野菜（コマツナやニンジン等）を給食として提供する取り組みを行っており、農と食の一貫した学びの場となっています。 小中学生を対象とした農作業体験では、農業のやりがいを的確に伝えるため、事前準備段階において講師との十分な打合せを徹底します。学校と講師をマッチングする際には、次年度も継続して体験できるよう支援します。また、成長と共に継続的に農作業に触れられるよう、同じ地域の他の教育機関への連携も働きかけます。 農作業体験参加者に対しては随時アンケートを実施しています。今後はその結果を次回以降の体験に反映させ、プログラムの充実に努めてまいります。	